

OnRPA[®] 管理者ガイド

株式会社アクシオ

2024 年 12 月 2.1 版

改訂履歴

No.	改正 番号	年 月 日	制 改	記 事 (制定・改正の理由、ポイントなど)	承認	制定
1	1.0	2018 年 07 月 30 日	制	初版制定	池本	副島
2	1.1	2018 年 09 月 27 日	改	別紙「WinActor を RDP 接続で使用する際の注意事項」 制定に伴う変更	池本	笠井
3	1.1.1	2018 年 10 月 18 日	改	3-8 Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンター共 有の有効化について を追加	池本	副島
4	1.2	2019 年 3 月 25 日	改	画面上の表示名変更に伴う変更	池本	笠井
5	1.2.1	2020 年 11 月 27 日	改	体験版機能見直しに伴う変更	大野	池本
6	1.3	2021 年 6 月 1 日	改	Ver1.3 に伴う変更 1 章 1-1 全面変更	池本	副島
7	1.31	2021 年 11 月 22 日	改	Ver1.3 評価版リリースに伴う変更 用語定義変更など	大野	副島
8	1.32	2022 年 1 月 17 日	改	Windows11 Pro 対応に伴う、OnRPA システム要件の 変更	大野	池本
9	1.33	2022 年 2 月 7 日	改	8.ライセンス規定の変更	大野	岡本
10	1.34	2022 年 9 月 13 日	改	8. アップグレード手順、9. 年間保更新時の対応を 追加	大野	副島
11	1.4	2023 年 7 月 19 日	改	Ver1.4 に伴う変更 1 章 1-1 全面変更、1-2 設定ファイルのインポート 機能について 項目追加、1-3 接続時間コメント追加、 1-5 参照レポートの追加 8 章 アップグレード手順 にコメント追加 1 1 章 評価版についての留意事項 を追加	大野	副島
12	2.0	2024 年 10 月 4 日	改	Ver2.0 に伴う変更 1 章 1-1 ①、⑧変更、⑥追加、1-3 接続調査機能 事 由の説明追加、1-6 ロボ情報の表示機能、1-7 OnRPA 実行ユーザがロボ PC の管理、1-8 OnRPA により利用 率観測(レポート作成)を定期的の実施してトレンドデ ータを作る・追加 3 章 3-5 Windows ファイアウォールについて 追加変 更、3-6 ログオン管理について 変更 1 1 章 評価版についての留意事項 変更	作本	副島
13	2.1	2024 年 12 月 10 日	改	Ver2.1 リリースに伴う変更 Err[0]の要因記述部の変更。(P11)	作本	副島

目次

1. OnRPA®の概要.....	3
1-1 接続先の設定機能.....	3
1-2 設定ファイルのインポート機能について	9
1-3 接続先調査機能.....	10
1-4 リモートデスクトップ接続呼び出し機能	11
1-5 リモートデスクトップ接続で RPA ソフトウェアを使用する際の注意事項.....	12
1-6 ロボ情報の表示機能	12
1-7 OnRPA 実行ユーザがロボ PC の管理者権限を持たない場合の利用率観測.....	14
1-8 OnRPA により利用率観測(レポート作成)を定期的の実施してトレンドデータを作る	14
2. OnRPA®に関するシステム構成要素	15
2-1 システム構成図.....	15
2-2 各構成要素について.....	15
2-3 OnRPA®のシステム要件.....	16
3. ロボ PC について	16
3-1 ドメインコントローラとの関係	16
3-2 RDP のポート番号について	17
3-3 リモートデスクトップの切断されたセッションの時間制限の設定	18
3-4 シナリオ実行用デスクトップの分離（クリップボードの使用許可などについて）	19
3-5 Windows ファイアウォールについて.....	20
3-6 ログオン管理について.....	24
3-7 Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンターの共有の有効化について	24
4. 施設予約管理システムによるロボ PC のスケジュール管理	25
5. OnRPA®のセキュリティ上の制約事項について.....	25
6. OnRPA®のファイル構成とインストールについて	26
7. OnRPA®の製品ラインナップ	26
8. アップグレード手順.....	26
9. 年間保守更新時の対応	27
10. ライセンス規定	27
10-1 ライセンス許諾範囲	27
10-2 OnRPA® 5 台ロボ管理版を 1 ライセンス購入した場合にライセンス違反となる利用例	27
10-3 Active Directory 同一ドメインでの共有利用	28
11. 評価版についての留意事項	29
12. その他.....	30

1. OnRPA®の概要

OnRPA®は、RPA（Robotic Process Automation）ソフトウェアを実装した端末（ロボ PC）にリモートデスクトップ接続して RPA ソフトウェア（WinActor 等）を実行する際に、使用されていないロボ PC に接続誘導するソフトウェアで、リモートデスクトップ接続を行う接続元 PC（ユーザ端末）にインストールされます。（図 1-0）

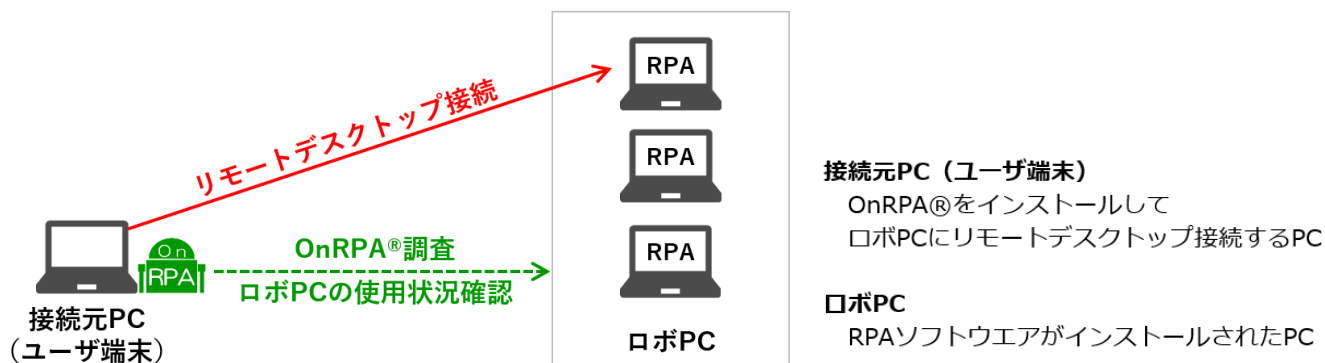


図 1-0

1-1 接続先の設定機能

OnRPA®の起動後の表示ウィンドウにて“設定画面の表示”を選択して実行すると設定画面が表示されます。設定画面では、下記の設定をすることが出来ます。（図 1-1）

図 1-1 設定画面

① 接続デスクトップの設定

「接続ボタン名にロボ名(別名)を使用する」

チェックボックスをチェックするとデスクトップ調査結果画面で接続ボタン名に表示される PC の名称がホスト名からロボ名（呼称名）に変更されます。

「接続ユーザに表示名を使用する。」

チェックボックスをチェックするとデスクトップ調査結果画面にてロボ PC を他者が利用中の場合、ユーザの表示名(Active Directory の表示名)が表示されます。表示名の定義が無い場合は UserID が表示されます。

「一括デスクトップ調査(UserMode)」

“UserMode” (後述)の場合、チェックボックスをチェックすると“RPA シナリオ作成デスクトップ” および “RPA シナリオ実行デスクトップ” 調査対象選択画面は表示されず、すべてのロボ PC のデスクトップ調査を実施します。(一括デスクトップ調査する場合のロボ PC は 20 台以下を推奨します。台数が多いと表示までの時間が掛かります。)

「RPA シナリオ作成_デスクトップ」

RPA シナリオ作成_デスクトップ (WinActor の場合はフル機能版) のホスト名およびロボ名、ロボ情報を登録するフィールドです。

管理者から指定されたホスト名（または IP アドレス）およびロボ名を入力します。

「RPA シナリオ実行_デスクトップ」

RPA シナリオ実行_デスクトップ (WinActor の場合は実行版) のホスト名およびロボ名、ロボ情報を登録するフィールドです。

管理者から指定されたホスト名（または IP アドレス）およびロボ名を入力します。

【注意事項】

・ ホスト名、ロボ名の入力文字数の制限

ホスト名については入力文字数の制限はありませんが、ロボ名については半角文字 20 文字数幅(文字種別の混在状況により異なります)が入力文字数上限です。テキストボックスに表示できる文字数となりそれ以上は入力できません。カットアンドペーストなどで入力文字制限を超えたペーストをすると空白になります。

・ ホスト名、ロボ名の入力文字の制限

半角コロン (:) は使用できません。また、アンパサンド (&) を入力する場合は、&& と 2 文字の重複で&が表示されます。その他の運用上の文字制限は管理者より指定してください。

・ ホスト名、ロボ名の空白処理

ホスト名は接続情報として必須のために空白は認められません。ロボ名の空白は認められますが、「接続ボタン名にロボ名(別名)を使用する」にチェックを入れている場合でロボ名が空白の場合はホスト名が表示されます。

「接続禁止時間帯」

ロボ PC への接続禁止時間帯の設定が行えます。接続禁止時間帯なし、接続禁止時間帯 A、接続禁止時間帯 B のいずれかを選択できます。

「Ver」

ロボ PC に実装している RPA ソフトウェアの Version を入力するとロボ情報表示画面で表示されます。

「期限」

ロボ PC に実装している RPA ソフトウェアの利用期限(サブスクリプションの期限等)を入力するとロボ情報表示画面で表示されます。

「保守 ID」

ロボ PC に実装している RPA ソフトウェアの保守 ID を入力するとロボ情報表示画面で表示されます。

「メモ」

ロボ PC や RPA ソフトウェアに関する情報メモを入力すると、ロボ情報画面で表示されます。

② 解像度の設定

デフォルトは“ローカルの解像度に合わせる”に設定されています。異なった解像度でシナリオ実行などする場合にはチェックボックスを外して、任意の解像度でリモートデスクトップを開くことが可能です。

③ 設定ファイル

「エクスポート」

設定済みの内容をファイルに出力します。エクスポートボタンを押下して表示される画面に従い出力するファイルを定義してください。

*** 設定を編集したファイルをエクスポートする場合は、必ず設定ボタンを押下して設定内容を保存後に、エクスポートしてください。**

「インポート」

指定ファイルの内容を設定に反映します。インポートボタンを押下して表示される画面に従い設定を反映させるファイルを定義してください。

④ 接続禁止時間

ロボ PC へのリモートデスクトップ接続を禁止する時間帯を定義することが出来ます。接続禁止時間 A、接続禁止時間 B と 2 種類の設定が可能です。(接続禁止時間 A →12:00～13:00、B→23:00～5:00 など。)

⑤ お知らせ表示

OnRPA®のメニュー画面にて、「お知らせ」としてメッセージを表示することが出来ます。

表示内容：表示するメッセージテキストを入力します。

リンクワード：メッセージテキストにハイパーリンクさせるワードを入力します。

リンク先：リンクワードで指定されたワードからのリンク先を定義します。

(http://……、mailto:……、¥¥fileserver¥¥shear)

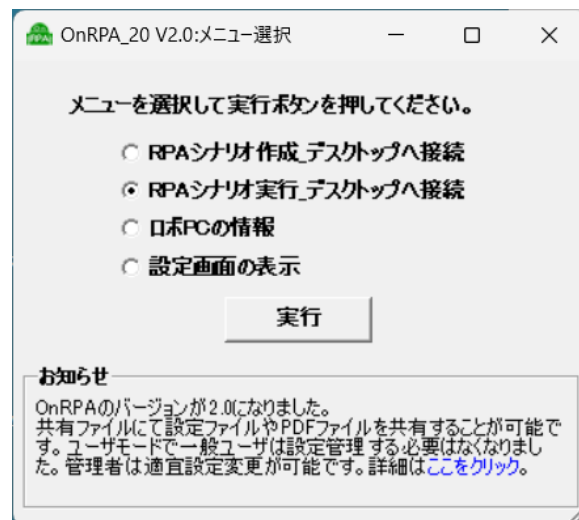


図 1-2 メニュー画面（お知らせ入力例）

⑥ 利用率計算

ロボ PC の利用率計算のためのパラメータ設定になります。

- ・ 利用率の計算期間 →利用率を計算する期間をプルダウンメニューから選択します。
- ・ 週の稼働日 →1 週間の稼働日をプルダウンメニューから選択します。(週休 2 日であれば 5 日/週)
- ・ 1 日の稼働時間 →1 日の稼働時間をプルダウンメニューから選択します。

* 利用率の計算期間が過去 7 日間の場合は、ロボ PC の情報選択ボタン押下時から過去 7 日間となります。

* 利用率の計算期間 $X(\text{週の稼働日} / 7) \times 1 \text{ 日の稼働時間} = 100\% \text{の稼働時間}$ として計算します。

⑦ 管理 ID

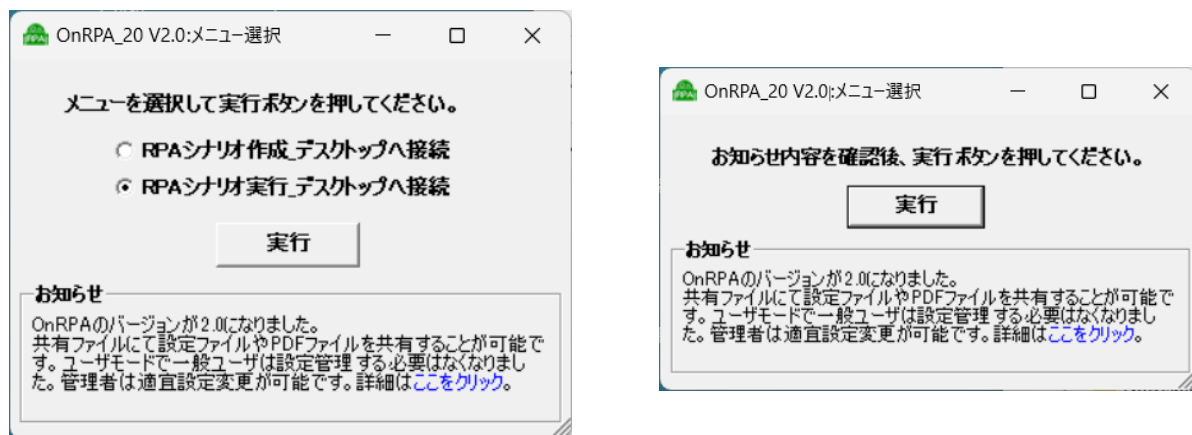
OnRPA®ではセキュリティ上の理由などにより、管理 ID が“0”の際にはリモートデスクトップの TCP 接続ポート番号を 10940 として接続を呼び出します。管理 ID を設定することにより任意の TCP 接続ポート番号を設定することが出来ます。接続ポート番号 = 10940 + 管理 ID となり、管理 ID が“10”の場合は 10950 となり、管理 ID が“-20”の場合は 10920 となります。無効な管理 ID が指定されると 3389（リモートデスクトップ接続のデフォルト値）となります。

*** 評価版は 3389 番固定です。**

⑧ 方式

方式フィールドに “UserMode” と入力し設定すると、ユーザモードの設定になります。

ユーザモードとは、**設定メニューを表示しないモード**で OnRPA®利用ユーザに設定の閲覧や変更をさせたくない場合に使用するものです。（図 1-3）



一括デスクトップ調査(UserMode) チェック無 一括デスクトップ調査(UserMode) チェック有

図 1-3 メニュー画面（ユーザモード）

ユーザモード時の設定画面の表示

管理者にて、ユーザモード利用中に設定内容を変更したい場合には、/admin スイッチを引数として OnRPA をコマンドプロンプトから起動すれば、設定メニューを選択できます。（図 1-4）

- ・ コマンドプロンプトにて OnRPA.exe がインストールされているディレクトリに移動
- ・ OnRPA.exe /admin にて起動

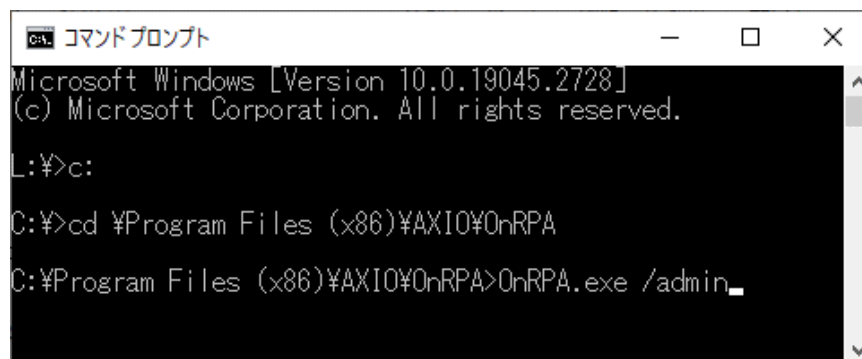


図 1-4 設定画面表示の起動方法

* セットアップ時に作成される OnRPA のショートカットはアドバタイズショートカット形式なので、ショートカットに引数定義できません。このショートカットを削除して通常のショートカット作成をすればショートカットに引数の定義が可能です。これにより管理者は常に設定画面が閲覧できます。(図 1-5)

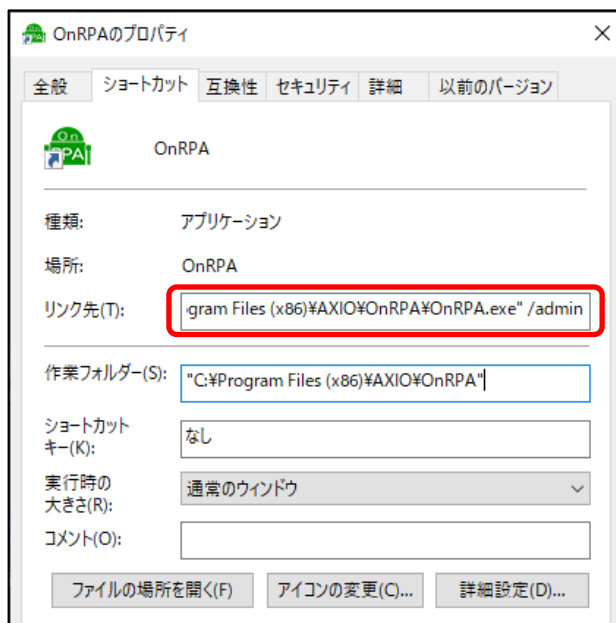


図 1-5 ショートカット

⑨ 設定（設定ファイルモード）

設定のチェックボックスをチェックし設定ファイルを格納する共有フォルダのディレクトリを記述すると設定ファイルモードになります。

設定ファイルモード: ロボPC 毎に解像度やポート番号など異なる設定情報で接続する場合(図 1-6)や OnRPA の設定情報を自動的に更新したい場合に利用します。このモードを利用することで、「お知らせ表示」の内容も最新版に更新して表示できます。(図 1-7)

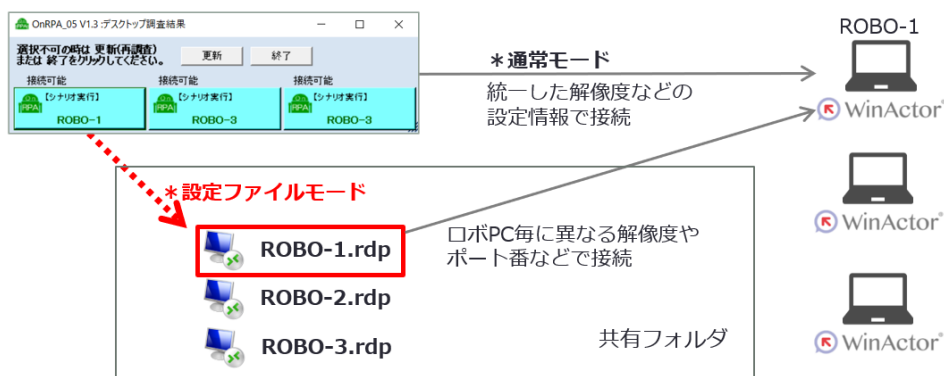


図 1-6 設定ファイルモード（異なる rdp 設定情報で接続）

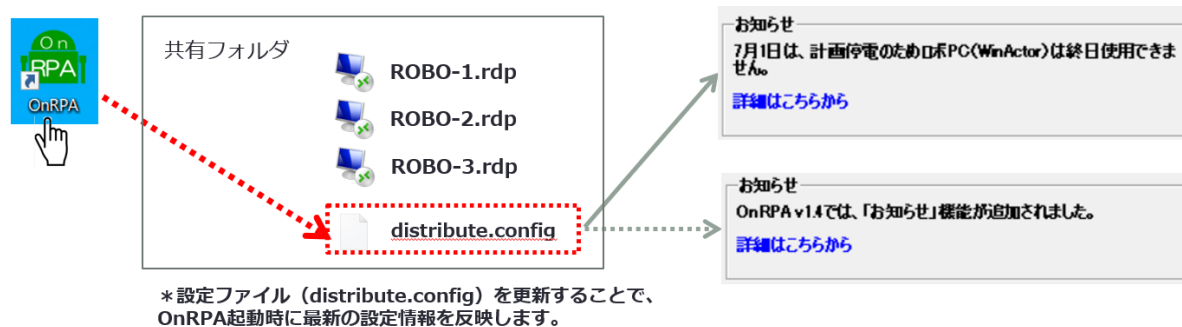


図 1-7 設定ファイルモード (OnRPA の設定情報の更新適用)

設定ファイルモードでは、OnRPA は 2 種類の設定ファイルを参照することが出来ます。

[distribute.config ファイル]

OnRPA は distribute.config ファイルを設定ファイルとして読み込んで起動します(ローカル設定ファイルも distribute.config ファイルの内容に書き換えられます)。distribute.config ファイルがフォルダに存在しない場合はローカル設定ファイルで起動します。

管理者は、distribute.config ファイルを更新することにより設定内容やお知らせのコメントを随時更新することが可能です。

* 管理者による distribute.config ファイル更新での注意事項

管理者が distribute.config ファイルを更新する場合は、下記の手順が必要となります。異なる手順ではファイル更新されない恐れがありますのでご注意ください。

- ①共有フォルダの distribute.config ファイルを削除。
- ②OnRPA の設定画面にて設定内容を変更し、設定ボタンを押下してローカルファイルに保存。
- ③再び設定画面を開いて、共有フォルダへ distribute.config ファイルとしてエクスポート。

[rdp ファイル]

設定ファイルモードの場合、OnRPA はリモートデスクトップ接続起動時、共有フォルダに“ホスト名.rdp”ファイルが存在する場合“ホスト名.rdp”にて起動します。この場合のリモードデスクトップ接続のポート番号や解像度は“ホスト名.rdp”の設定内容が反映されます。格納場所に当該の“ホスト名.rdp”がない場合は、OnRPA で設定された通常のリモードデスクトップ接続が起動されます。

“ホスト名.rdp”ファイルの GUI 編集やテキスト編集により詳細なリモートデスクトップ接続設定条件が定義可能になります。(図 1-8)

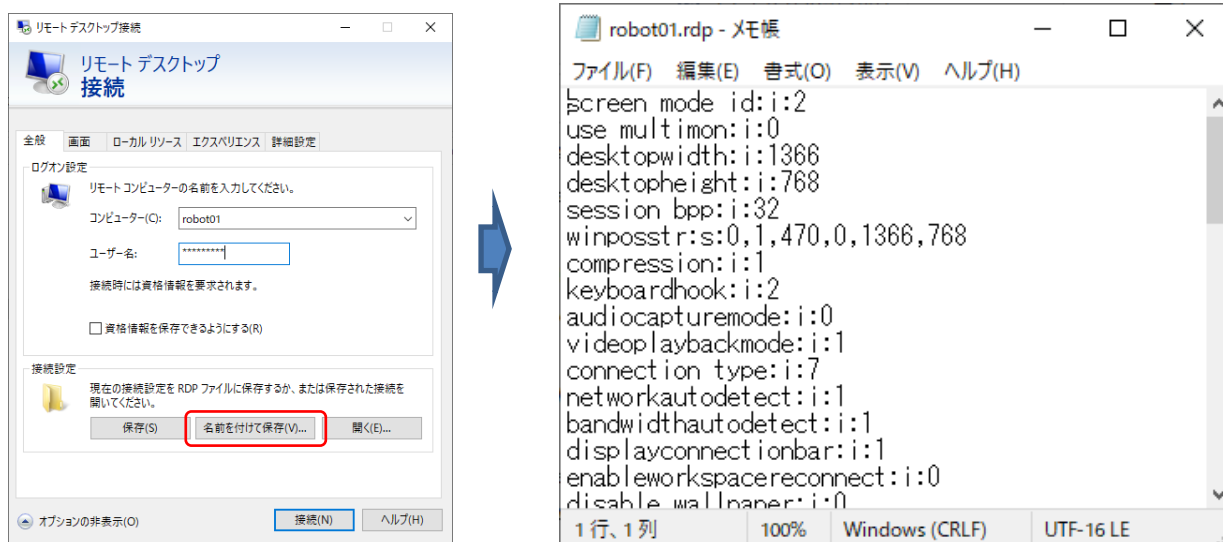


図 1-8 rdp ファイルをアプリ→メモ帳で開いた場合。(詳細は Microsoft のコンテンツを参照ください。)

- 以上の設定フィールドは利用ユーザが初めて起動した際、設定していただくフィールドになります。各ユーザには利用可能なデスクトップのホスト名、ロボ名など設定項目の提示をお願いいたします。(ユーザモードやセットアップ時に設定ファイルを指定した場合を除く)

1-2 設定ファイルのインポート機能について

Ver1.4 より、ユーザの操作による設定ファイルのインポートの方法は下記の 3 種類になります。運用状況に応じて使用してください。

① ユーザによる設定ファイルのインポート

ユーザに設定ファイルを配布して、OnRPA®の設定画面にてインポートを実施させる方法です。ユーザはユーザガイドの 設定ファイル→インポート に従い実施します。

② インストール時の設定ファイルのインポート

初期インストールやバージョンアップのためにユーザに setup ファイルによるインストールを実施させる際、setup ファイルと同じディレクトリに default.config という名称で設定ファイル配置して、setup を実施します。OnRPA®セットアップウィザード画面における「設定ファイルを追加しますか？」画面にて“はい”を選択して実施することによりインストール成功後、自動的に設定ファイルのインポートが実施されます。(図 1-9 参照)

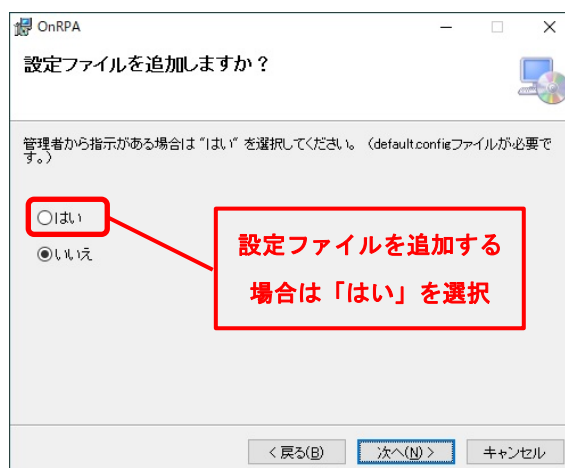


図 1-9 「設定ファイルを追加しますか？」画面

*** 設定ファイルを更新する場合**

設定ファイルを更新したい場合は、ユーザに setup ファイルと default.config を再配布して setup を実施します。既に同一バージョンの OnRPA®がインストール済みの場合はセットアップウィザード画面にて、OnRPA®の修復・削除の選択画面が表示されますので、「削除」を選択しセットアップを終了させ、再び setup を実施して設定ファイルをインポートさせます。(図 1-10 参照)

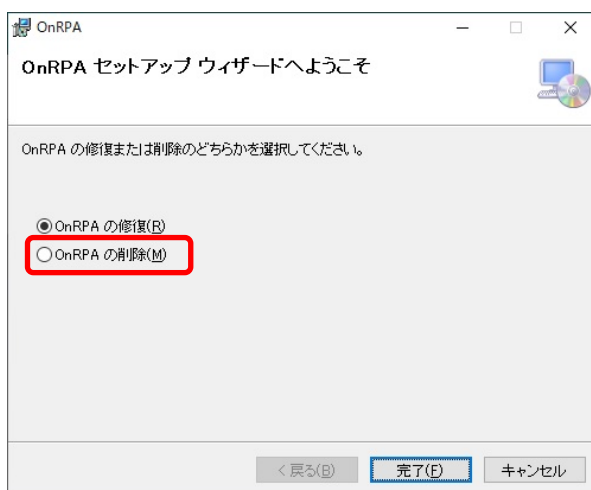


図 1-10 再インストール実行時のセットアップウィザード画面

*** セットアップ時に読み込む設定ファイルは default.config ファイル、設定ファイルモードで OnRPA 起動時に読み込む設定ファイルは distribute.config ファイルになります。**

③ コマンド引数を用いた設定ファイルのインポート

コマンドラインにて 「onrpa.exe /i 設定ファイルのフルパス」 引数を使うことにより設定ファイルのインポートが可能です。本操作は管理者の利用やスクリプトへの組み込みなどの場合に使用するためのもので、ユーザ向けとしては推奨しません。(図 1-11)

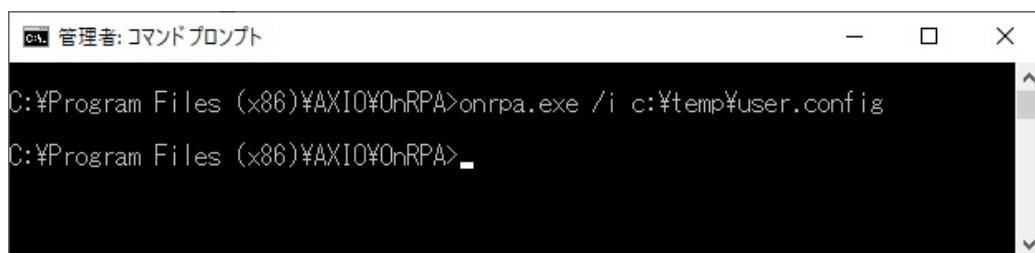


図 1-11 コマンド引数を用いたインポート例

1-3 接続先調査機能

OnRPA®の起動後の表示ウインドウにて“RPA シナリオ作成_デスクトップへ接続”または“RPA シナリオ実行 _デスクトップへ接続”を選択して実行すると選択されたデスクトップの利用状況を調査してその調査結果を表示します。この際に利用可能なデスクトップを押しボタン表記して接続先をガイドする機能です。(図 1-12)

接続可能なデスクトップはボタンが有効化に、接続不可のデスクトップはボタンが無効化され赤字にて以下の理由が表示されます。

- **接続可能** 対象のデスクトップは接続可能で、ボタンが有効化されています。
- **Err[5]権限無し** OnRPA®の実施ユーザに接続調査のための権限(リモートデスクトップ接続権限)がありません。

- **Err[1722]未疎通** 接続調査のための通信が不通です。
 - **Err[0]要調査** OnRPA®の実施ユーザに接続調査のための権限(リモートデスクトップ接続権限)がないか、接続調査のための通信が不通です。
 - **user 名 または 表示名 使用中** 対象のデスクトップは **user 名** または **表示名** が使用中です。
 - **接続禁止時間です。** 対象のデスクトップは接続禁止時間です。
- * Err 出力の際は 資料 “OnRPA® 困ったときは？” を参照ください。

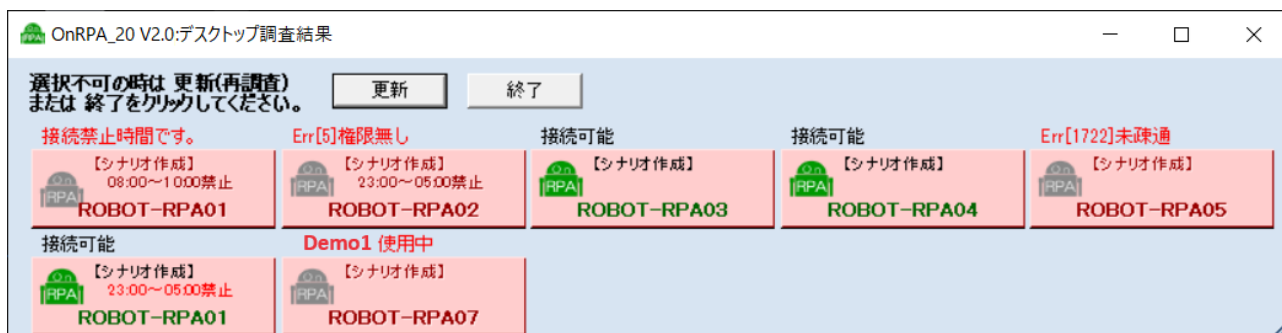


図 1-12 デスクトップ調査結果画面

1-4 リモートデスクトップ接続呼び出し機能

図 1-12 デスクトップ調査結果画面 において、接続可能なデスクトップボタンを押下すると対象のデスクトップの利用状況調査を再度調査し、接続可能であれば OS に実装されているリモートデスクトップ接続を当該のホストコンピュータ向けに起動し、OnRPA®は終了します。(図 1-13)

利用ユーザは、ユーザ名とパスワードを入力しデスクトップの利用を開始します。



図 1-13 リモートデスクトップ接続画面

- リモートデスクトップ接続はパブリックモードにて実行されます。パブリックモードではユーザ名やパスワードの履歴を残すことが出来ないため、都度入力が必要になります。

デスクトップの利用状況再調査を行い、利用不可の場合はその理由を提示したウィンドウが表示され、全体の再調査を行うようにガイドします。(図 1-14)

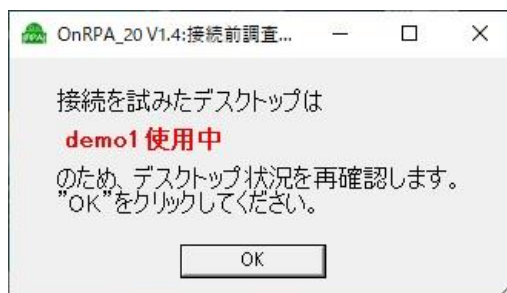


図 1-14 接続前調査結果画面

➤ 接続が競合した場合の注意事項

ごく稀に、複数の端末から同時にデスクトップに接続された場合は、接続する端末にて“接続しています”と表示されたポップアップウインドが表示し続ける場合があります。その場合はリモートデスクトップ接続をキャンセルして、再度 OnRPA®を起動して接続を試みてください。（図 1-15）

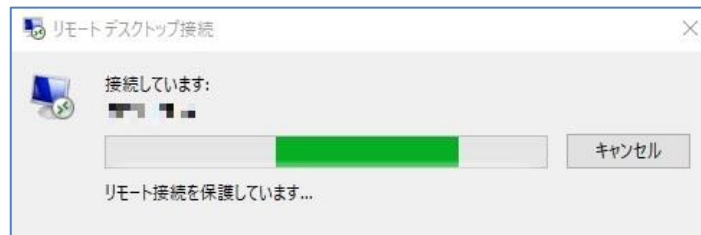


図 1-15

または、下記の図のように後着接続した旨のメッセージが表示される場合もあります。（図 1-16）

この場合は“いいえ”をクリックして、再度 OnRPA®を起動して接続を試みてください。

（“はい”をクリックすると先行接続ユーザに多大な迷惑がかかる恐れがありますのでクリックしないようにお願いします。）

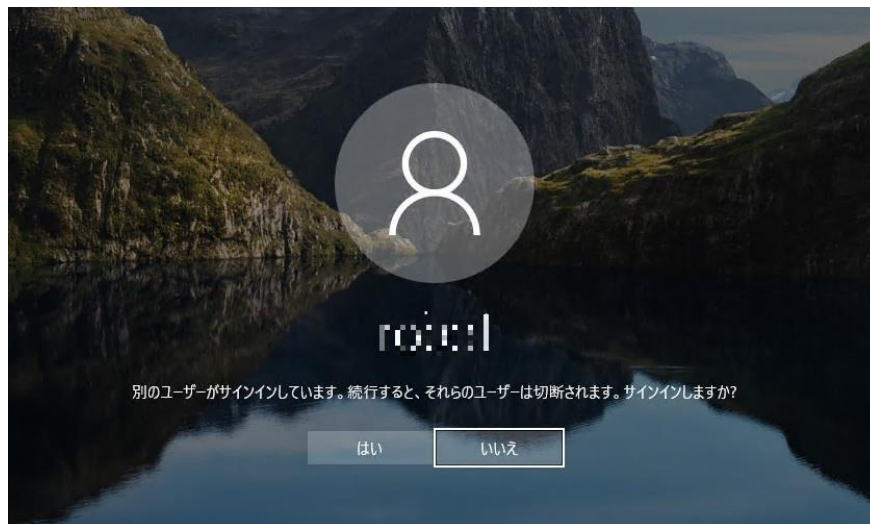


図 1-16

*** 上記の運用方法についてはユーザマニュアルにも表記しますので、利用ユーザに周知をお願いします。**

1-5 リモートデスクトップ接続で RPA ソフトウェアを使用する際の注意事項

RDP 接続で RPA ソフトウェアを使用する場合は、制限事項があってシナリオなど正常に動作しない場合があります。各 RPA ソフトウェアの注意事項にしたがって運用をお願いします。

*** RPA ソフトウェアが WinActor の場合の参照資料**

【レポート】WinActor ここがポイント リモートデスクトップ接続における最小化スクリーンロックにおける対処法（<https://www.axio.co.jp/colum/2019/190228.html>）

【レポート】WinActor ここがポイント RPA リモート実行時の 4 つの課題と対処法

（<https://www.axio.co.jp/colum/2023/230303.html>）

1-6 ロボ情報の表示機能

Ver2.0 よりロボ情報の表示機能が追加されました。メニュー画面の“ロボ PC の情報”を選択すると、ロボ PC の選択画面が表示され、任意のロボ PC を押下することによりロボ PC の情報が表示されます。（図 1-17）

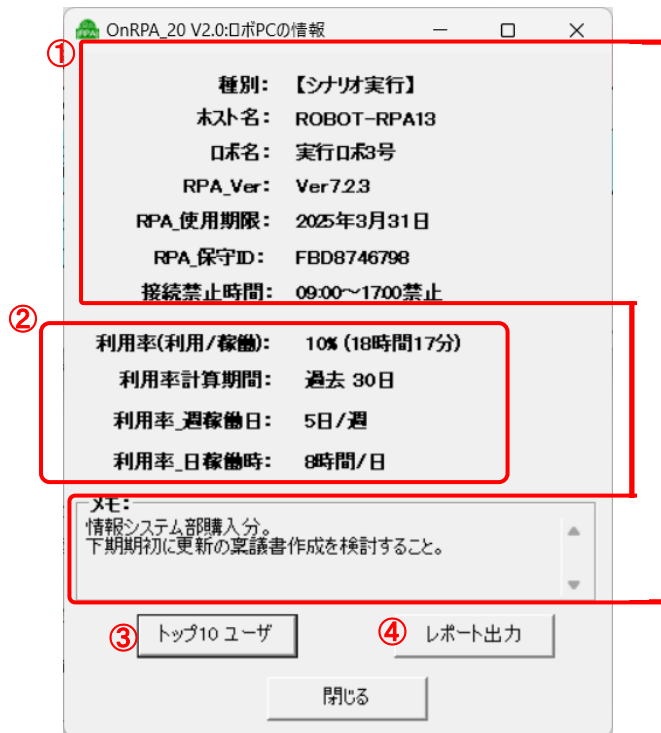


図 1-17

① ロボ情報の表示

設定情報：設定画面で入力した個々のロボ PC の情報が表示されます。

② 利用率に関する表示

ロボ PC のログオン時間についての利用率を表します。

ロボ PC のログオン時間 / 100%とするログオン時間 (%)

100%とするログオン時間は、利用率計算期間、利用率_週稼働日(1 週間で稼働する日にち)、利用率_日稼働時 (1 日で稼働する時間) で定義します。

ロボ PC のログオン時間については、ロボ PC の Windows ログ¥システム のログオン・ログオフのログ情報から算出しています。

* Windows ログでは、予期せぬ電源断などでログオフ情報が記録されない場合があります。その場合は次のログオン時に前回のログオンユーザはログオフされたと判断して計算しています。

* 利用率の表示については、OnRPA を実行しているユーザが当該の**ロボ PC の管理者権限を持っている必要があります**。ロボ PC の管理者権限が無いと、リモートからロボ PC の Windows ログの参照が出来ないため表示は出来ません。

ロボ PC の管理者権限を持たない場合には、ロボ PC に OnRPA をインストールすることで自ロボ PC の利用率を取得することができます。

* 利用率が表示できない場合の表示

「RPC サーバーを利用できません。」

接続元 PC からロボ PC への利用率調査コマンドの疎通がありません。

ロボ PC の Windows F/W 設定、ネットワーク関連で疎通されていない可能性があります。

「許可されていない操作を実行しようとしてしました。」

OnRPA 実行ユーザがロボ PC の調査権限 (管理者権限) を持っていない可能性があります。

③ トップ 10 ユーザ

利用率で使用した Windows ログからログオン時間の多い順にトップ 10 ユーザを表示します。ユーザが 10 人に満たない場合は、利用者数がすべて表示されます。

④ レポート出力

ロボ情報で表示されるすべての情報、トップ 10 ユーザの情報、利用率計算の根拠となる、Windows ログのログオン・ログオフのログ情報が記述されたテキストファイルが出力されます。

ログ情報により、いつ・どのユーザ ID がどの程度ロボ PC を利用したかを見ることが出来ます。

1-7 OnRPA 実行ユーザがロボ PC の管理者権限を持たない場合の利用率観測

前述の通り、OnRPA の実行ユーザがロボ PC の管理者権限を持っていないと利用率の観測をすることはできません。管理者権限を持たない場合の利用率観測の方法は下記のとおりです。

① OnRPA をロボ PC 自身にインストールする。

② ロボ PC にログオンして、OnRPA を実行

③ 設定にてホスト名（ロボ名）を自身のロボ PC として登録する。

④ 都度、ロボ PC にログオンして、OnRPA を実行、ロボ情報の選択からロボ PC を選択しロボ情報を入手。

OnRPA 実行ユーザが管理者権限を持たない場合は、ローカルコンピュータの Windows ログの参照は可能なため、ロボ PC 自身に OnRPA を実装することにより利用率の観測をすることが出来ます。

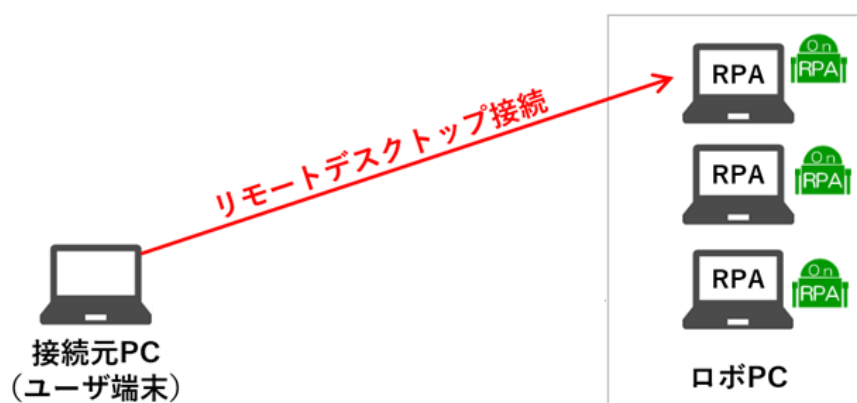
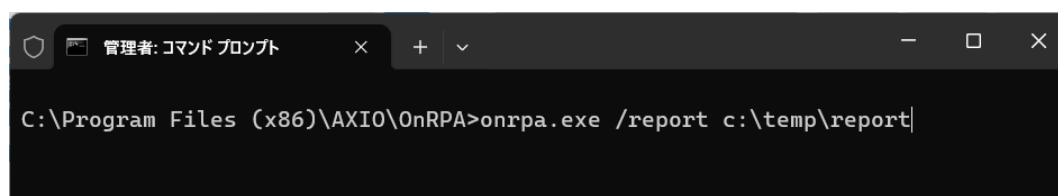


図 1-18

1-8 OnRPA により利用率観測(レポート作成)を定期的実施してトレンドデータを作る

OnRPA が UserMode で設定されていない場合、下記のコマンド引数によりロボ情報のレポート作成を実施することができます。

`onrpa.exe /report C:\hoge\hoge` (onrpa.exe、コマンド引数、レポート格納 dir)



コマンドの実行により、指定したディレクトリにロボ情報のレポートが作成されます。対象のロボ PC は設定画面で設定されているすべてのロボ PC になります。利用率の条件なども設定画面に従います。

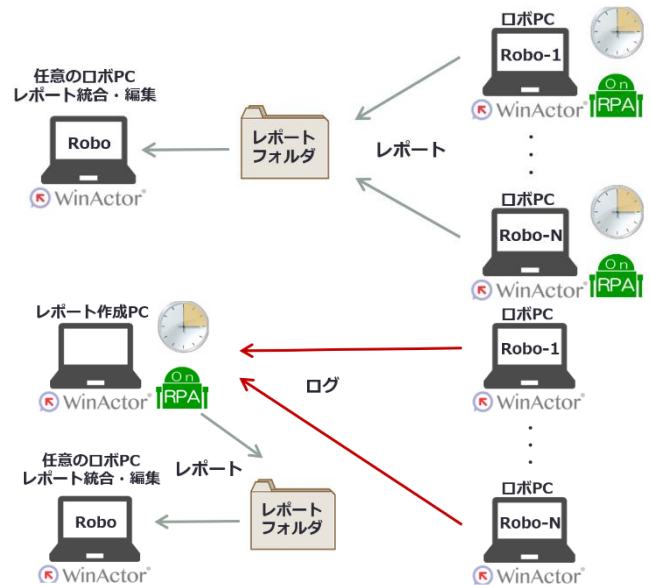
上記のようなコマンドを常時稼働の PC のタスクスケジューラーにて、毎月 1 日や毎週日曜日などのトリガーで実施することにより、定期的なロボ情報レポートを作成することが出来、これらを統合編集することで利用トレンドなどを知ることが出来ます。レポート統合編集シナリオは、OnRPA 資料に同梱されております。

構成例は下記の通りです。

① ロボ PC に OnRPA を実装した場合

各 OnRPA は自ロボ PC のレポート作成

- ロボ PC でタスクスケジュール実行
- ロボ PC に対する管理者権限は不要



② レポート作成 PC に OnRPA を実装した場合

OnRPA は全ロボ PC のレポートを作成

- レポート作成 PC でタスクスケジュール実行
- 常に稼働状態が必要
- ロボ PC に対する管理者権限が必要
- レポート作成 PC はロボ PC 兼務可

2. OnRPA®に関するシステム構成要素

2-1 システム構成図

OnRPA®に関するシステム構成図を下記に示す。(図 2-1)

①Active Directory

(ドメインコントローラ)

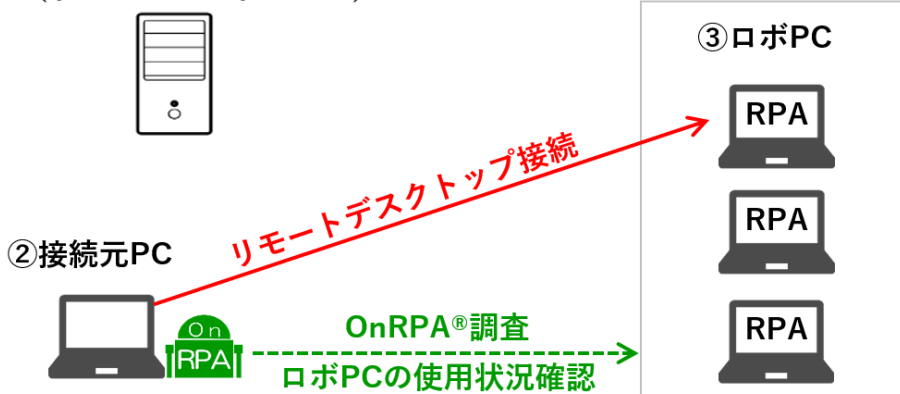


図 2-1 システム構成図

2-2 各構成要素について

① Active Directory(ドメインコントローラ)

ロボ PC へのリモートデスクトップ接続権限や OnRPA®における接続調査の権限設定のため、ドメインコントローラは必須となります。

② 接続元 PC

接続元 PC に OnRPA®のインストールを実施し、OnRPA®を起動することにより未使用の RPA ソフトウェア実装 PC を選択したリモートデスクトップ接続を起動することが出来ます。

OnRPA®のインストールにおけるシステム要件は「2-3 OnRPA®のシステム要件」をご覧ください。

③ ロボ PC

RPA ソフトウェアがインストールされた PC で OnRPA®がインストールされた接続元 PC からアクセスされます。本機器の設定条件の詳細については「3. ロボ PC について」を参照してください。

2-3 OnRPA®のシステム要件

OnRPA®のシステム要件（接続元 PC のシステム要件）は下記の通り

【ハードウェア要件】

Windows10、Windows11 OS 上で Microsoft Office 等の標準的なソフトウェアが動作可能なもの

【OS 要件】

Windows10 Pro、 Windows11 Pro 以上（.NET Framework 4.6 以上、ドメイン参加していること）

3. ロボ PC について

ロボ PC（RPA ソフトウェアをインストールする PC）に対する設定要件や推奨条件について記載します。

3-1 ドメインコントローラとの関係

【設定対象：ロボ PC】

ロボ PC におけるリモートデスクトップ接続をするユーザについては、管理を行っているドメインの OU やグループ、ユーザであり、ユーザの定義はロボ PC のコンピュータの管理者として定義*1（図 3-1）するか、リモートデスクトップユーザ(グループ)として定義*2（図 3-2）する方法のどちらかが必須です。

*1：コンピュータのユーザーアカウント画面は Windows システムツール → コントロールパネル

→ ユーザーアカウント → アカウント種類の変更 をクリックし開きます。

*2：リモートデスクトップユーザの設定は Windows システムツール → コントロールパネル

→ システムとセキュリティ → リモートアクセスの許可 → ユーザーの選択 をクリックし開きます。



図 3-1 コンピュータのユーザーアカウント設定
(ロボ PC の管理者権限)

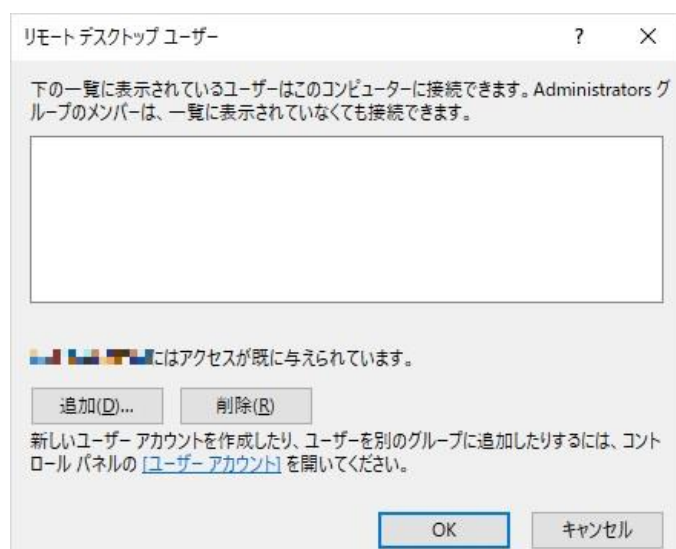


図 3-2 リモートデスクトップユーザの設定
(ロボ PC へのリモートデスクトップ接続権限)

また、OnRPA®で接続状況を調査できる接続元 PC は調査対象のロボ PC に上記で定義された OU やグループ、ユーザでログインしている場合のみ接続状況の調査が可能です。

OnRPA® を実行するユーザがロボ PC の管理者権限またはリモートデスクトップ接続権限を持っていない場合は、「Err[5]権限無し」と表示します。(1-3 接続先調査機能参照)

3-2 RDP のポート番号について

【設定対象：ロボ PC】

OS に搭載されるリモートデスクトップ接続による過失の後着接続を防止するために、ロボ PC におけるリモートデスクトップ接続のポート番号は、標準の 3389 から変更することを推奨します。OnRPA®を使用する場合は、リモートデスクトップ接続のポート番号の初期値を 10940（TCP および UDP）とします。任意のポート番号を使用したい場合は OnRPA®の接続設定機能の管理 ID を変更します。詳細は 1.1 接続先の設定機能の ⑥ 管理 ID を参照ください。

ポート番号変更は以下の手順で実施します。

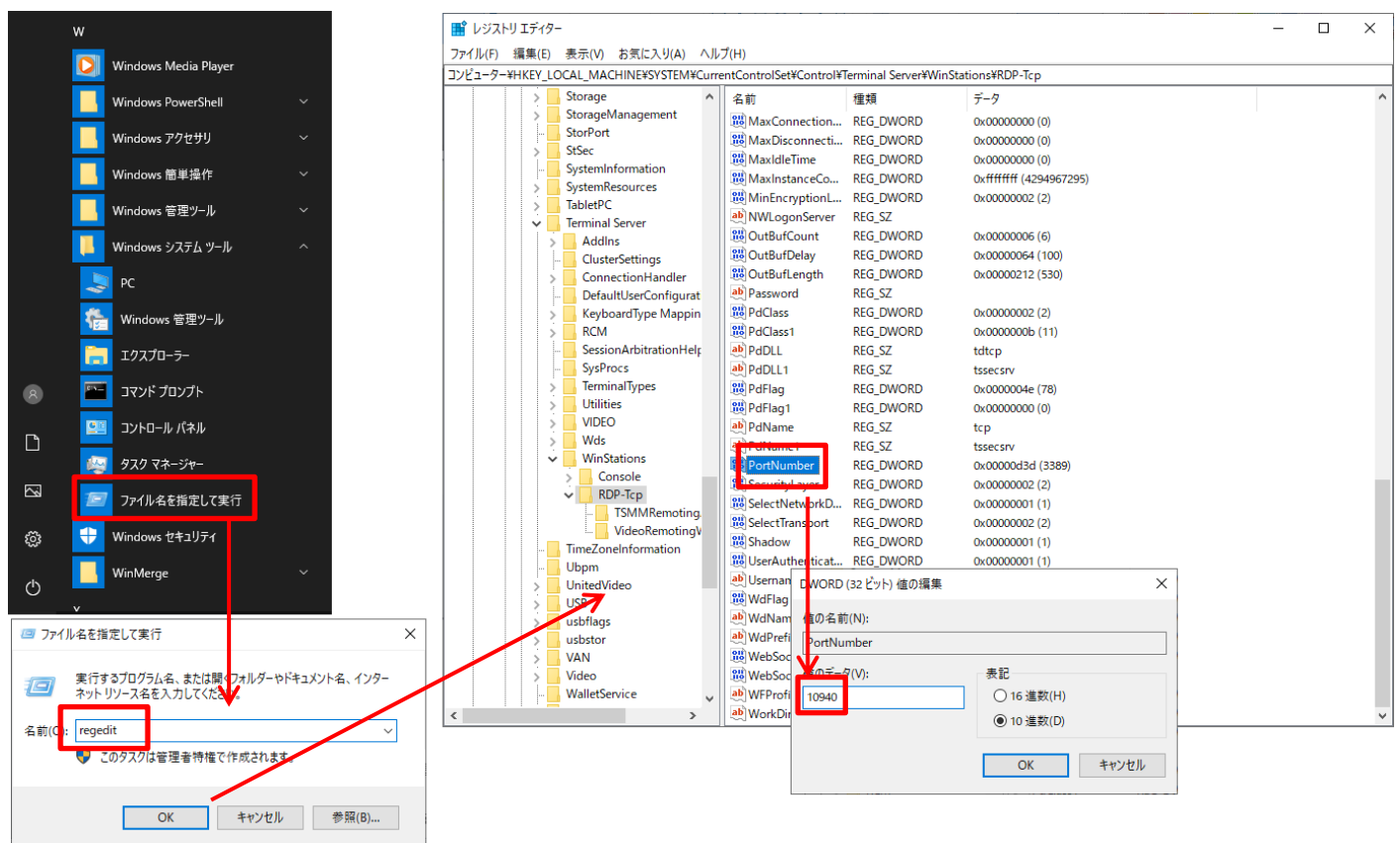
Windows システムツール → ファイル名を指定して実行 → 「regedit」と入力して OK ボタン押下。

→ レジストリエディター画面が開くので、HKEY_LOCAL_MACHINE

¥SYSTEM¥CurrentControlSet¥Control¥Terminal Server¥WinStations¥RDP-Tcp を選択。

→ PortNumber を変更。（管理 ID 0 の場合は 10 進数 で 10940 (UDP および TCP 番号)）

設定後、ポート番号変更を反映する為に PC の再起動を行って下さい。



3-3 リモートデスクトップの切断されたセッションの時間制限の設定

【設定対象：ロボ PC】

RPA ソフトウェアは、シナリオ作成時や実行時にはリモートデスクトップセッションが常に有効である必要があります。リモートデスクトップを開いて、シナリオ実行を開始後、リモートデスクトップのセッションを一度閉じてしまうと、再度デスクトップ接続開始してもシナリオの実行結果を得ることは出来ません。

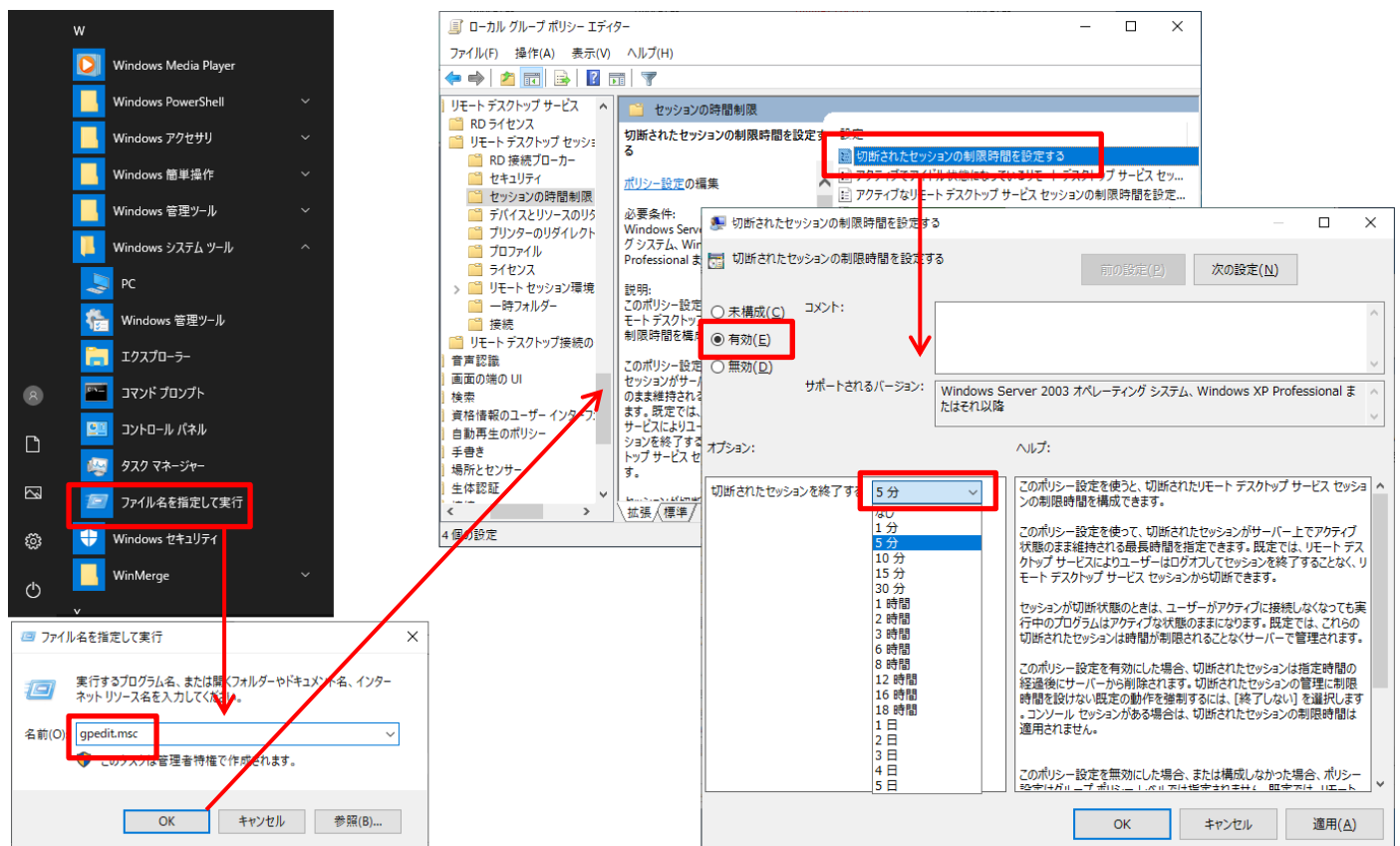
このため、ログオンしたままリモートデスクトップのセッションがなくなった場合はそのユーザのログオン状態をクローズさせて他のユーザのために開放できる様に設定することを推奨します。そのために、グループポリシーにて、リモートデスクトップの切断されたセッションについては、ある一定時間経過した際に自動的にログアウトさせるように設定します。

時間制限変更は以下の手順で実施します。

Windows システムツール → ファイル名を指定して実行 → 「gpedit.msc」と入力して OK ボタン押下。

→ ローカルグループポリシーエディター画面が開くので、ローカルコンピュータポリシー→

コンピュータの構成→管理用テンプレート→Windows コンポーネント→リモートデスクトップサービス→リモートデスクトップセッションホスト→セッションの時間制限→”切断されたセッションの制限時間を設定する。”を有効にして終了するまでの時間を設定する（1 分、5 分、10 分……）



3-4 シナリオ実行用デスクトップの分離（クリップボードの使用許可などについて）

【設定対象：ロボ PC】

リモートデスクトップ接続を行った場合、デフォルトの設定ではリモートのデスクトップとクリップボードなどのリソースをリダイレクト(共有)します。リモートデスクトップにてシナリオを実行させている場合、ローカルデスクトップでクリップボードの操作をするとその内容がリダイレクトされてシナリオがうまく動作しない等が考えられます。

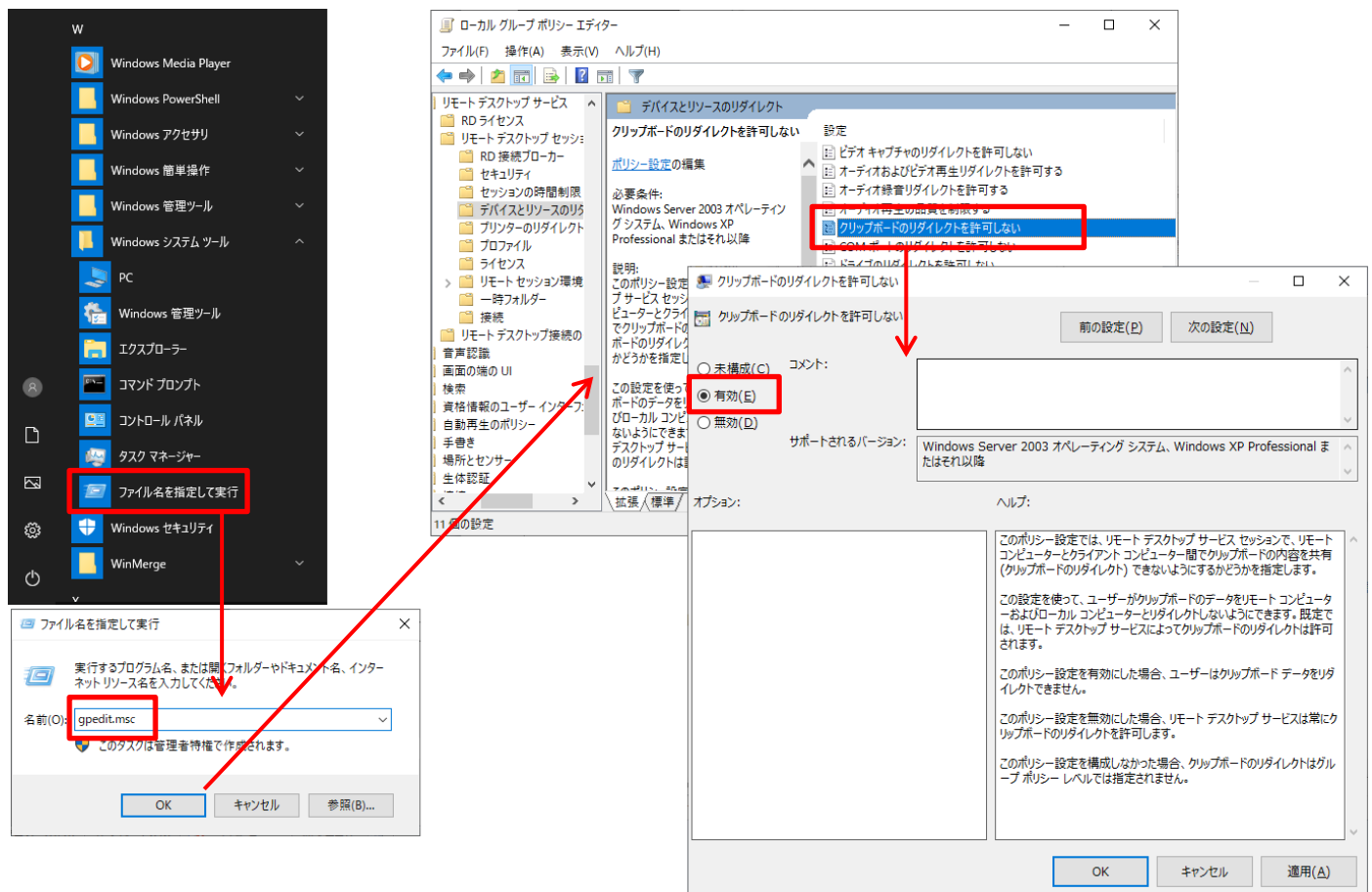
このため、RPA ソフトウェアを実装したリモートデスクトップのグループにはリモートデスクトップ接続時にクリップボードリダイレクトを許可しない設定にしておくことをお勧めします。他のリソースについてもシナリオと干渉する恐れがある場合は共有を“無効”にすることをお勧めします。これらを適用する場合、ローカルからリモートへのシナリオファイルの貼り付けなど出来なくなるので、シナリオ共有のためのファイルサーバドライブのアタッチなどの検討が必要です。

リダイレクト許可設定変更は以下の手順で実施します。

Windows システムツール → ファイル名を指定して実行 → 「gpedit.msc」と入力して OK ボタン押下。

→ローカルグループポリシーエディター画面が開くので、ローカルコンピュータポリシー→

コンピュータの構成→管理用テンプレート→Windows コンポーネント→リモートデスクトップサービス→リモートデスクトップセッションホスト→デバイスとリソースのリダイレクト→“クリップボードのリダイレクトを許可しない”を有効にする。



3-5 Windows ファイアウォールについて

【設定対象：ロボ PC】

ロボ PC に Windows 標準の Windows ファイアウォールを実装している場合、デフォルトの設定では OnRPA®実行にて送出される接続状況を調査する通信要求を受信拒否するようになっています。

このため Windows ファイアウォールの設定にて下記についての受信許可を設定する必要があります。

【リモートサービス管理の受信許可を実施】

- ・ リモートサービス管理 (NP 受信) 許可
- ・ リモートサービス管理 (RPC) 許可
- ・ リモートサービス管理 (RPC-EPMAP) 許可

また、ロボ PC 情報における利用率の観測をする場合は、リモートからのイベント参照を許可させる必要があるため、下記についての受信許可も設定する必要があります。

【リモートイベント管理の受信許可を実施。】

- ・ リモートイベントのログ管理 (NP 受信) 許可
- ・ リモートイベントのログ管理 (RPC) 許可
- ・ リモートイベントのログ管理 (RPC-EPMAP) 許可

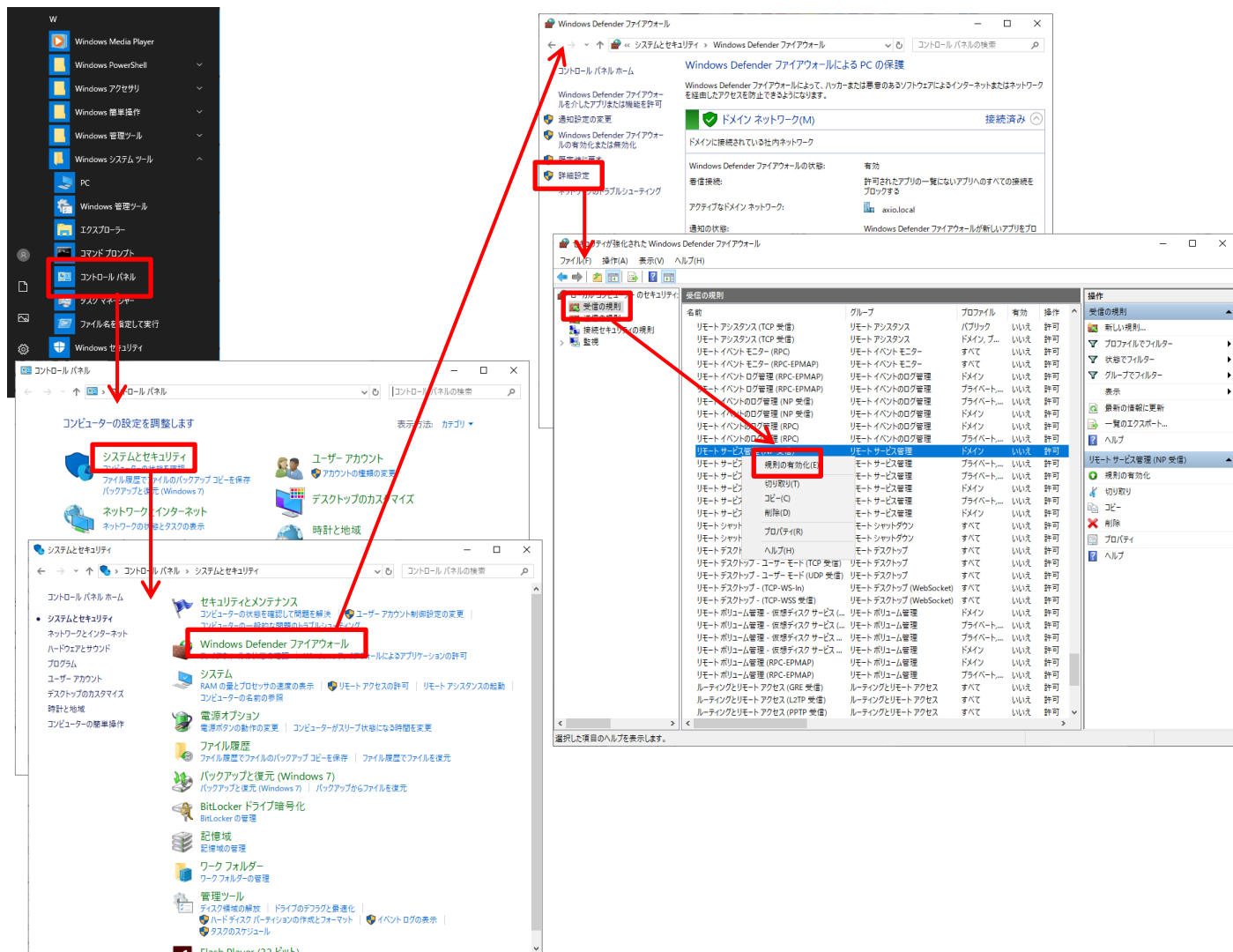
Windows ファイアウォールのプロファイルは、通常は「ドメイン」で設定しますが、プライベートからもドメイン参照を許可している場合はプライベートの設定も必要となります。お客様の情報システム担当に確認ください。

リモートデスクトップ接続のポート番号の変更 (TCP および UDP) についても設定変更が必要です。

受信許可設定変更は以下の手順で実施します。

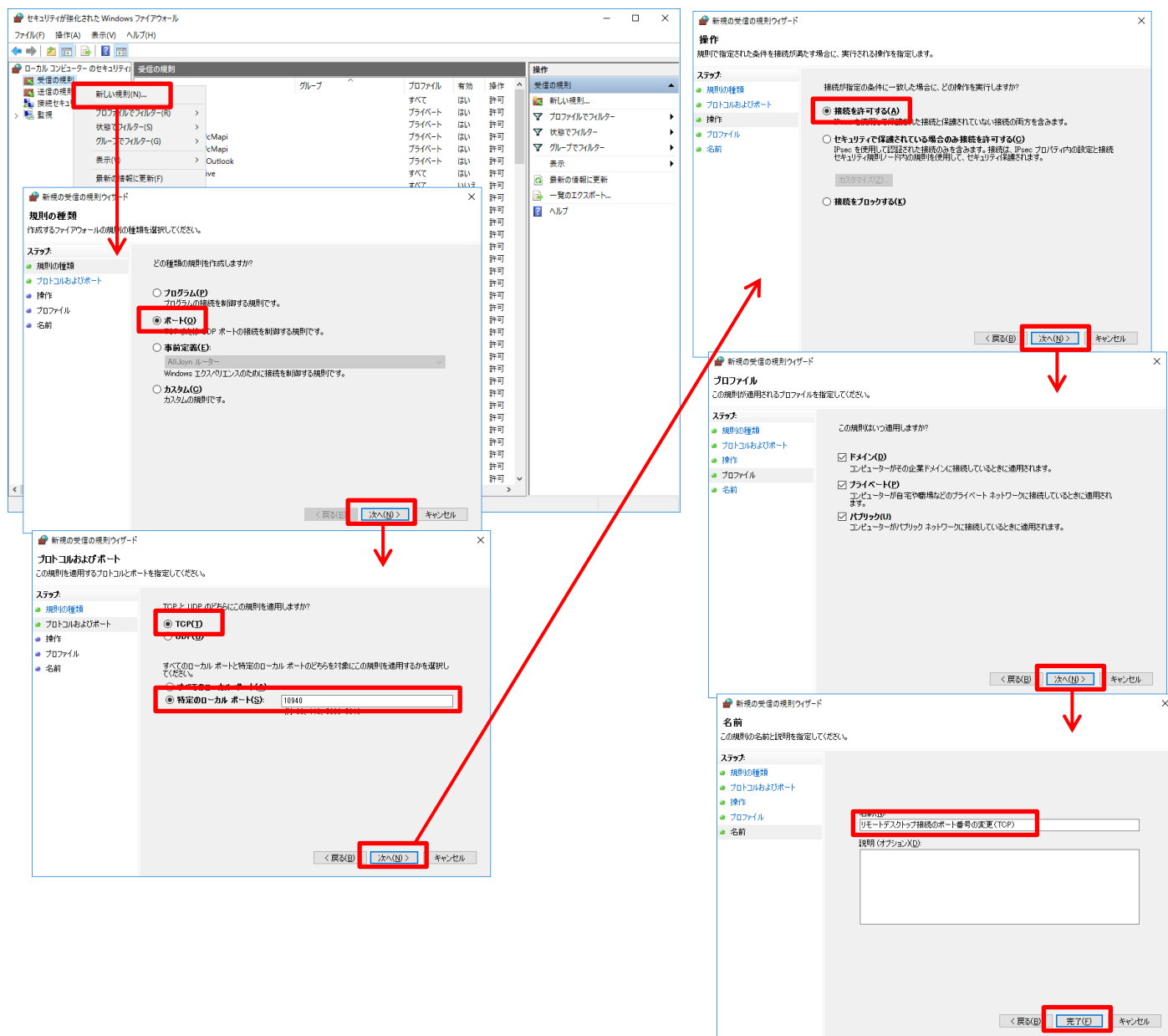
Windows システムツール → コントロールパネル → システムとセキュリティ → Windows Defender ファイアウォール → 詳細設定 → 受信の規則

→ 受信の規則一覧が表示されるので、受信を許可させたい規則を右クリックして「規則の有効化」を選択。

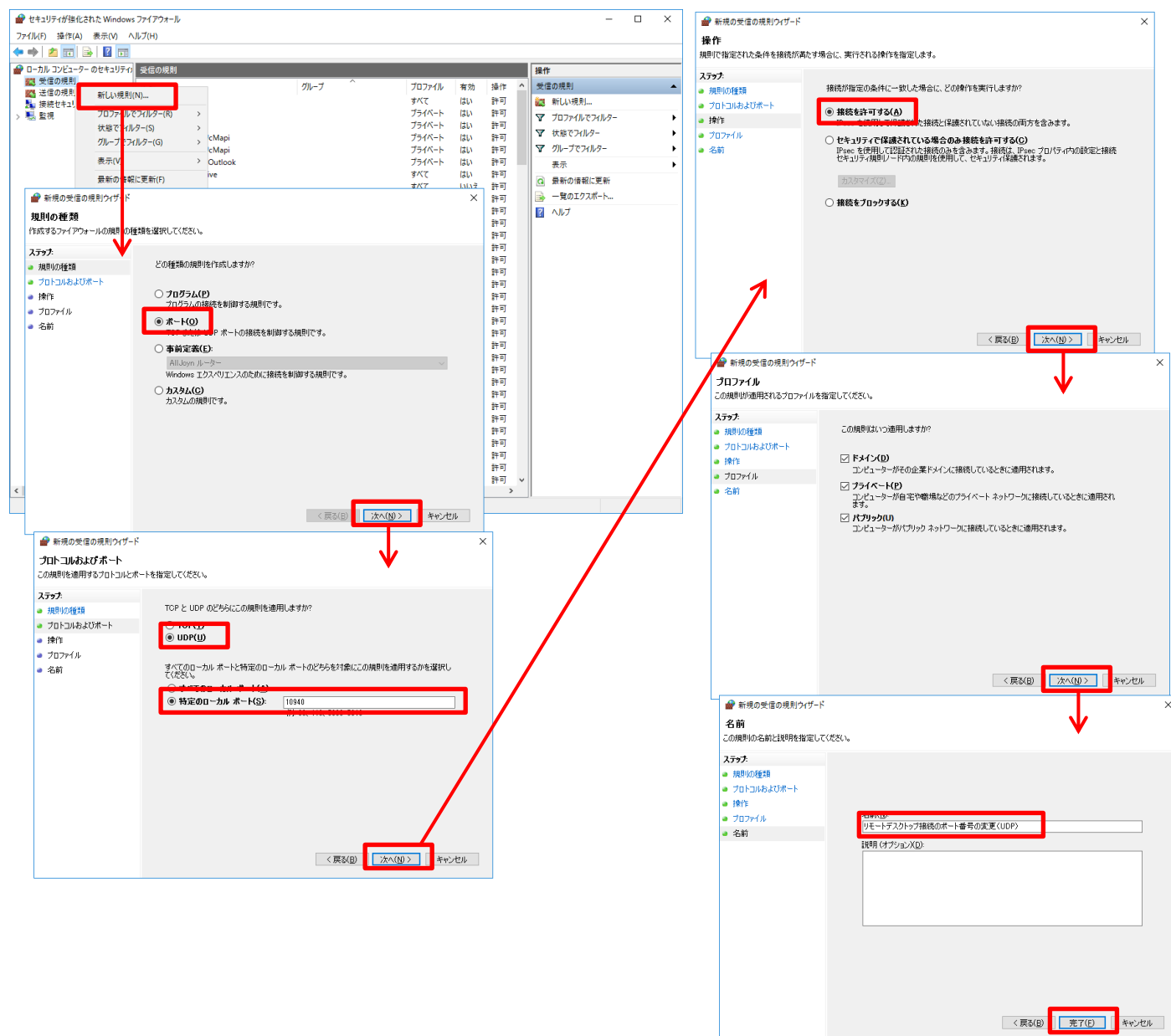


リモートデスクトップ接続のポート番号の変更は以下の手順で実施します。

1.受信の規則を右クリックし「新しい規則」→「ポート」を選択し「次へ」→「TCP」と「特定のローカルポート」を選択し、ポート番号に「10940」と入力し「次へ」→「接続を許可する」を選択し「次へ」→何も変更せずに「次へ」→名前欄に「リモートデスクトップ接続のポート番号の変更 (TCP)」と入力し「完了」



2.受信の規則を右クリックし「新しい規則」→「ポート」を選択し「次へ」→「UDP」と「特定のローカルポート」を選択し、ポート番号に「10940」と入力し「次へ」→「接続を許可する」を選択し「次へ」→何も変更せずに「次へ」→名前欄に「リモートデスクトップ接続のポート番号の変更 (UDP)」と入力し「完了」



3-6 ログオン管理について

OnRPA®にてリモートデスクトップ接続先である、ロボ PC の使用状況を確認することが主体的な機能です。ログオン管理の機能はありませんが、ロボ情報画面からレポート出力により Windows ログのシステムログのログオン・ログオフ情報の取り込みは可能です。この情報の範囲内でのログオン管理が可能です。

3-7 Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンターの共有の有効化について

【設定対象：ロボ PC】

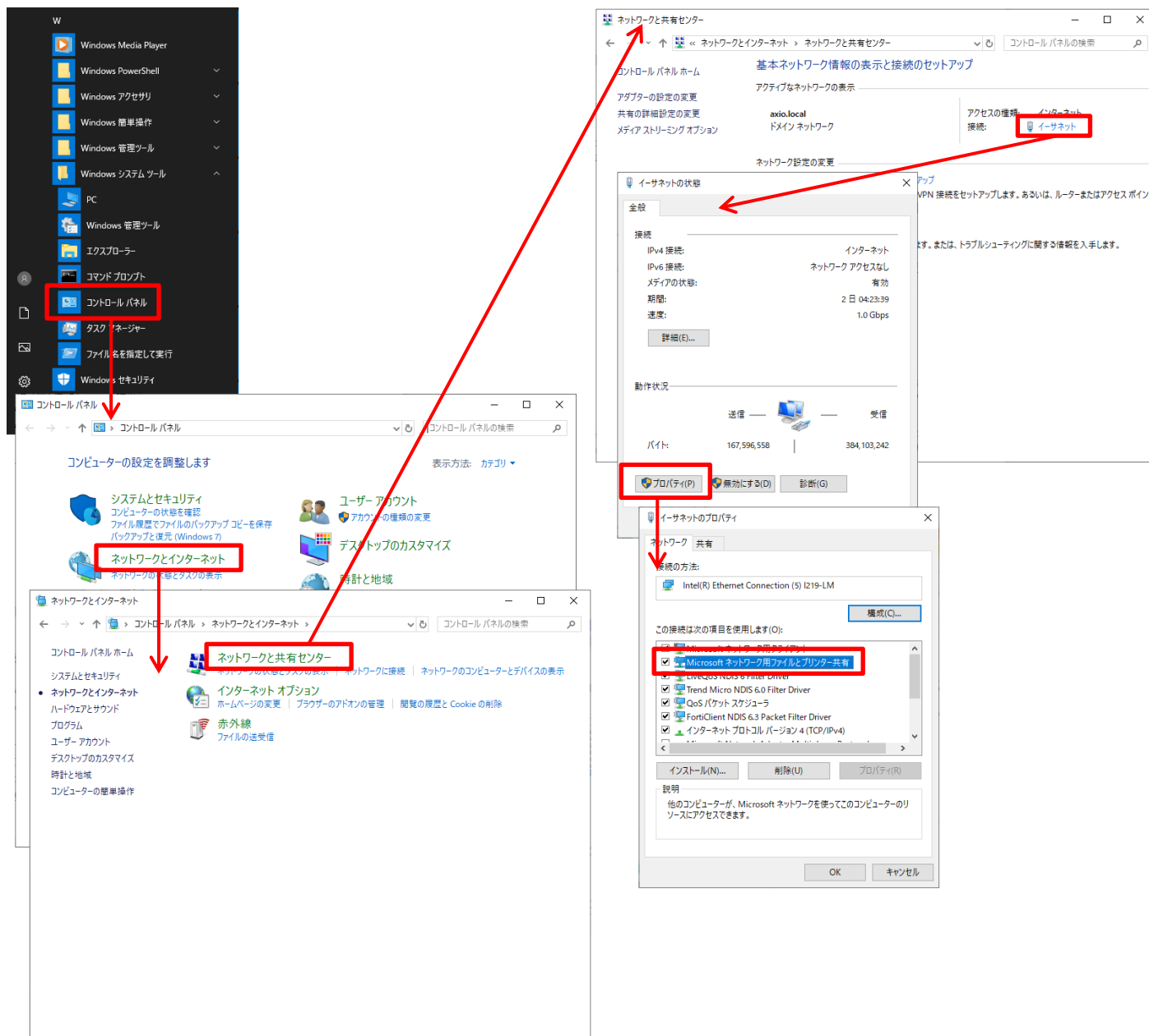
OnRPA®ではデスクトップの接続状況調査をする際に、OS に実装されたコマンド（query session コマンド）を使用して調査を実施しており、SMB2/3 プロトコルを使用しています。

このため、OnRPA®に関連する機器間では SMB2/3 プロトコルの疎通が必要であり、ネットワークプロファイルで定義されている「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンターの共有」はチェック（有効化）が必要です。（初期状態はチェックされています。）

有効化は以下の手順で実施します。

Windows システムツール → コントロールパネル → ネットワークとインターネット → ネットワークと共有センター → 接続(イーサネット) → プロパティ

→ プロパティ画面が表示されるので、「Microsoft ネットワーク用ファイルとプリンターの共有」にチェックを入れる。



4. 施設予約管理システムによるロボ PC のスケジュール管理

OnRPA®はその利用時におけるリモートデスクトップ接続先の接続状態を調査することが出来ますが、利用中の場合はそのデスクトップがいつ解放されるかはわかりません。RPA ソフトウェア実行デスクトップはシナリオ作成のための学習時など、導入初期では長い時間帯で占有されることが想定されます。このため施設予約管理システムなどを併用して、半日～数日程度のスパンで予約管理を行い、予約した利用者が実際に使用する際に予約対象の RPA ソフトウェア実行デスクトップの空きを OnRPA®で確認して接続するという形態での運用を推奨いたします。

5. OnRPA®のセキュリティ上の制約事項について

OnRPA®はリモートデスクトップ接続の競合や後着接続を防止するために接続対象のリモートデスクトップの接続状態を調査するソフトウェアで、リモートデスクトップ接続の競合や後着接続を禁止させる機能は実装していません。OnRPA®は、リモートデスクトップ接続アプリケーション単体を操作した場合の過失による競合や後着接続を防ぐことが可能です。このために、RDP のポート番号を変更することを推奨するとともに、リモートデスクトップ接続アプリケーションの呼び出しもパブリックモード（接続履歴を残さない）で行っています。

このため、運用にて RPA ソフトウェア利用ユーザについて、その接続には必ず OnRPA®を利用するように周知をお願いします。

6. OnRPA®のファイル構成とインストールについて

OnRPA®はインストーラーとして exe(例 Setup.exe)ファイルと msi (例 OnRPA_20_Setup.msi) ファイルにて供給されます。これらの 2 つのファイルを同一ディレクトリに格納しどちらかのファイルをダブルクリックするとインストールされます。表示ウィンドウに従ってインストールをお願いします。

OnRPA®のファイル構成は、OnRPA.exe の 1 ファイルのみで、通常は、C:\Program Files(x86)\AXIO\OnRPA ディレクトリが作成され、OnRPA.exe が作成されます。

インストールされるのは OnRPA.exe のみのため、OnRPA.exe を資産管理ツールなどで配布することも可能です。

また、OnRPA®を実行すると設定ファイルが自動的に作成され、実行したユーザの AppData 隠しファイル …\¥ユーザ名¥AppData¥Local¥AXIO (Windows10 の場合)に専用ディレクトリが作成され user.config ファイルが作成されます。

7. OnRPA®の製品ラインナップ

OnRPA®は下記の 3 つの形態で提供されます。

- OnRPA®評価版 (体験のために無償で配布されます。)

評価ライセンスでの用途は、製品購入を目的とした評価になります。継続的に使用したり、業務に使用したりすることは禁じられています。その場合は製品版のご購入をお願いします。

管理できる RPA_デスクトップが、1 台のみ実行できる無償版です。

「RPA シナリオ作成_デスクトップ」の項目は利用出来ませんので、「RPA シナリオ実行_デスクトップ」の登録フィールドに、1 台のホスト名を登録してご利用ください。

また、管理 ID は入力不可でリモートデスクトップ接続の Port 番号はデフォルトの 3389 番でリモートデスクトップ接続が実行されます。

- OnRPA® 5 台ロボ管理版 (有償)

RPA シナリオ作成 _デスクトップ、RPA シナリオ実行_デスクトップ について、それぞれ 5 台ずつ実行できる有償版です。

6 台目以降で登録されたデスクトップは無視され接続状況の調査もボタン表示も実施しません。

- OnRPA® 20 台ロボ管理版 (有償)

RPA シナリオ作成 _デスクトップ、RPA シナリオ実行_デスクトップ について、それぞれ 20 台ずつ登録及び実行できる有償版です。

8. アップグレード手順

OnRPA®評価版 → OnRPA® 5 台ロボ管理版または OnRPA® 20 台ロボ管理版、

OnRPA® 5 台ロボ管理版 → OnRPA® 20 台ロボ管理版 にアップグレードすることが可能です。

インストーラーでアップグレード前と同一ディレクトリにインストールすると自動的に上書きされます。

また、設定も引き継がれます。(インストール履歴はプログラムと機能画面に残ります。)

Ver1.4 以上へのアップグレードの場合はセットアップ時に設定ファイルを指定することも可能です。(1-2 設定ファイルのインポート機能について を参照ください。)

9. 年間保守更新時の対応

年間保守更新時に、更新に関する作業等は発生しません。継続して使用できます。

10. ライセンス規定

10-1 ライセンス許諾範囲

ライセンスを購入されたお客様法人内において、OnRPA®を複製してインストールする PC 台数に制限はありませんが、OnRPA®に登録できる RPA ソフトウェアをインストールした PC（ロボ PC という）の台数が規定されています。表-1 の登録可能ロボ PC 最大数がライセンス許諾数となり、これを超過しての利用はできません。尚、Active Directory のドメインが同一の場合に限りグループ会社内での利用も可能とします。また、評価版は、評価・試用の目的でのみ使用することができ、この目的を超えて継続的な利用や業務利用することはできません。本ライセンス規定の範囲での使用が許諾されます。ソフトウェア使用許諾契約書もご確認ください。

表-1

	登録可能ロボ PC 最大数	
	開発用ロボ PC *	実行用ロボ PC *
OnRPA® 5 台ロボ管理版	5	5
OnRPA® 20 台ロボ管理版	20	20

*開発用ロボ PC：開発用 RPA ライセンスがインストールされた PC

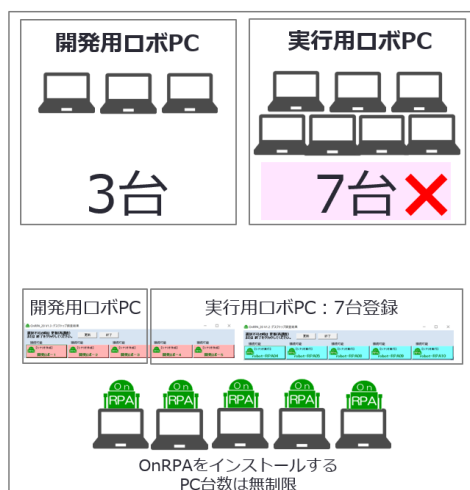
*実行用ロボ PC：実行用 RPA ライセンスがインストールされた PC

10-2 OnRPA® 5 台ロボ管理版を 1 ライセンス購入した場合にライセンス違反となる利用例

本項では、5 台ロボ管理版を例として記載しますが、20 台ロボ管理版も同様となります。

(1) 管理ロボ台数の超過（開発用ロボ PC：3 台、実行用ロボ PC：7 台）

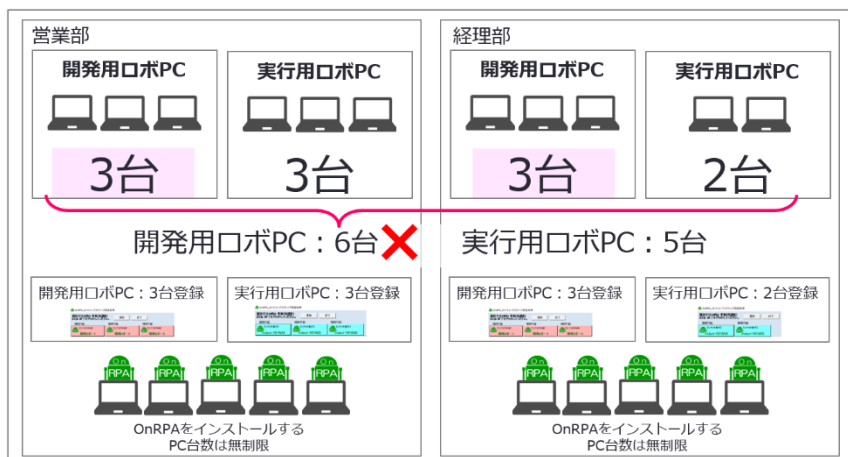
開発用ロボ PC、実行用ロボ PC の登録は、表-1 の登録可能ロボ最大数を超過して利用することはできません。また、実行用ロボ PC を開発用ロボ PC として（または開発用ロボ PC を実行用 PC 用として）登録することはできません。



開発用ロボ PC：3 台、実行用ロボ PC：7 台で利用される場合には、5 台ロボ管理版 2 本か 20 台ロボ管理版のライセンスが必要になります。

(2) 複数拠点や部署などで異なるロボ PC を利用する場合のロボ PC の超過登録

開発用ロボ PC、実行用ロボ PC 毎の登録総数は、表-1 登録可能ロボ PC 最大数を超過できません。



左図のように、営業部と経理部で利用するロボ PC が異なる場合には、その総数が表-1 登録可能ロボ PC 最大数を超過することはできません。

この場合では、開発用ロボ PC が営業部の 3 台と経理部の 3 台で計 6 台となり、5 台ロボ管理版では超過となります。

10-3 Active Directory 同一ドメインでの共有利用

Active Directory の同一のドメイン環境であれば、グループ会社*における OnRPA®の共有利用は可能です。

ただし、この場合も登録ロボ PC の総数が、表-1 の登録可能ロボ PC 最大数を超過することはできません。

*グループ会社の対象範囲は、出資比率 50%以上の日本国内グループ会社とします。

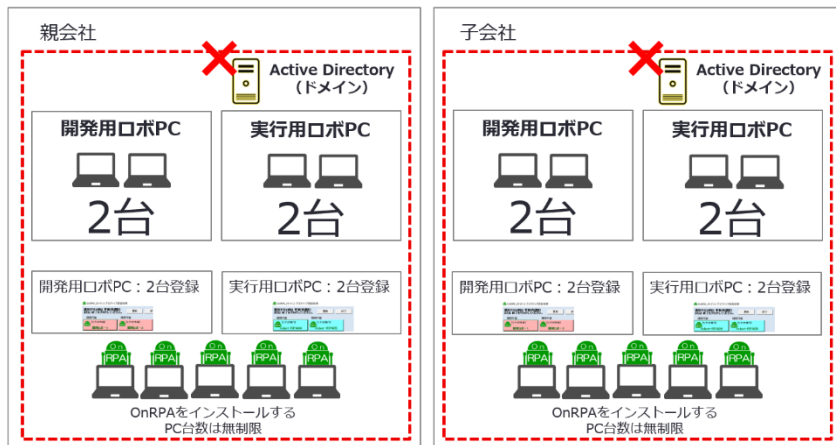
(1) 同一ドメインにおける共有利用



同一ドメイン環境であり、登録ロボ PC の総数が表-1 の登録可能ロボ PC 最大数の範囲内の場合にはグループ会社での共有利用が可能となります。

(2) 異なるドメイン環境での利用 (ライセンス違反)

異なるドメイン環境のため共有利用はできません。各社毎にライセンスの購入が必要になります。



1 1. 評価版についての留意事項

評価版には、製品版に比べて以下の制限があります。

➤ 使用できる用途の制限

評価ライセンスでの用途は、製品購入を目的とした評価になります。継続的に使用したり、業務に使用したりすることは禁じられています。その場合は製品版のご購入をお願いします。(ポップアップあり)

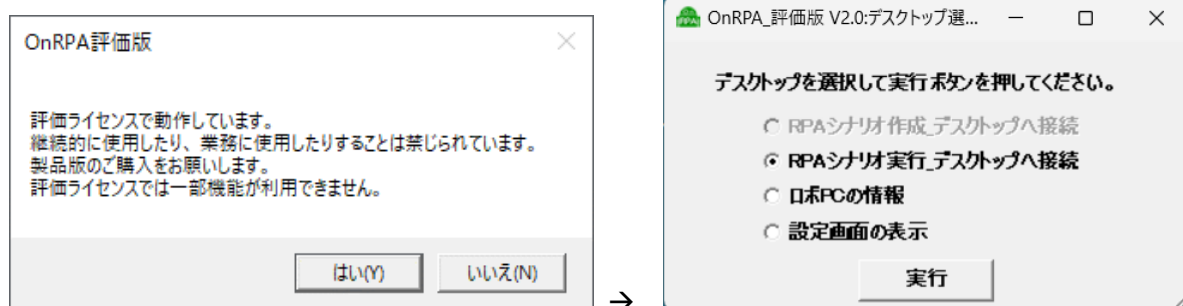
➤ 管理可能な RPA_デスクトップの台数制限

RPA_デスクトップとは、WinActor などの RPA ソフトウェアを実装した PC (ロボ PC) のリモートデスクトップ接続対象です。

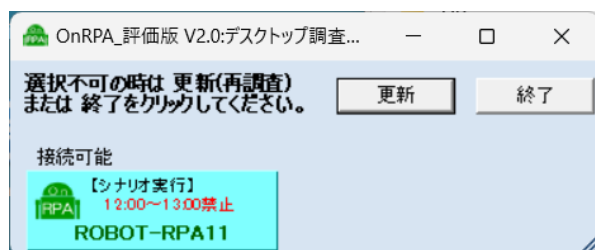
➤ 評価版では、管理可能な RPA_デスクトップは、1 台となります。

アプリケーションを起動すると、「RPA シナリオ作成_デスクトップ」の項目は下図のようにグレーアウトして利用出来ませんので、設定画面の表示にて、「RPA シナリオ実行_デスクトップ」の登録フィールドに 1 台のホスト名を登録してご利用ください。

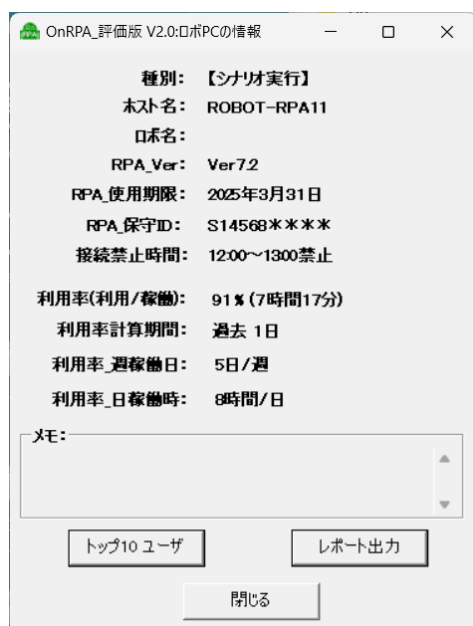
*** 評価版の場合、開発用ロボ、実行用ロボのどちらでも問題ありません。**



➤ 評価版では、RPA がインストールされた PC1 台に対して接続出来ます。



➤ 評価版では、ロボ情報の表示画面にて利用率の計算期間は過去 1 日のみ固定になります。また、/report コマンドは使用できません。



1 2. その他

OnRPA®に関するドキュメントは下記の通りです。

- 「OnRPA®管理者ガイド」 （本書）
- 「OnRPA®ユーザガイド」
- 「OnRPA®ソフトウェア使用許諾契約書」
- 「WinActor を RDP 接続で使用する際の注意事項」
- 「OnRPA® 環境構築クイックガイド」
- 「OnRPA® 困ったときは」
- 「非ドメイン環境における OnRPA®の利用」

「OnRPA」は、株式会社アクシオの登録商標です。

「WinActor」は、エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。

その他の会社名または製品名は、各社の商標または登録商標です。